

学校経営計画

子どもの「好き」を^{みんな}組織でつくる
子どもの「得意」を^{みんな}組織でつくる
子どもの「笑顔」を^{みんな}組織でつくる

小金井市立前原小学校



自分が好き、学校が好き、ここが好き

令和5年度 小金井市立前原小学校学校経営計画

小金井市立前原小学校
校長 小柳 政憲

〈学校経営理念〉

子供たち一人一人の自尊感情を、強くしなやかに育てる教育を、保護者、地域と共に推進し、子供たち、保護者、地域から愛され、誇りとなる学校を創造する。

1 目指す学校

- 子供一人一人がよさを発揮し自尊感情を高め、意欲的、創造的に活動する学校
- 生涯にわたって学び続けるために必要な意欲や学び方など、生涯学習の基礎・基本を確実に身に付けられる、授業が充実した学校
- 家庭・地域社会との相互理解・協力を図り、学校の役割をよりよく果たしてその信託に応える開かれた学校
- 教職員が教育活動の充実のために指導力を研ぎ、一致協力して組織的に教育活動を展開できる学校

2 中期的な目標と方策

(1) 児童

ア 学力の向上

- ・主体的に学習に取り組む態度の育成
- ・基礎的な知識及び技能の定着
- ・思考力・判断力・表現力の育成
- ・基礎的な体力の育成・向上

イ 豊かな心の育成

- ・自分とともに他人を大切にする態度の育成
- ・社会の一員であるという自覚と規範意識の育成
- ・信頼関係を築きながら建設的にものごとを進める態度の育成

(2) 教職員

ア 能力開発と資質向上

- ・職に対する夢をもち、チャレンジする気力の向上
- ・職務実践課題を明確にして解決する力の向上
- ・コミュニケーション力、人間関係調整力の向上
- ・授業実践力、生活指導力の向上

イ 組織力の向上

- ・共通の目標に向かって創造的に取り組む雰囲気の醸成
- ・トップダウンとボトムアップが効果的に発揮される仕組みの活性化
- ・組織対応力、問題解決力の向上

(3) 家庭・地域

ア 理解・連携・協力の強化

- ・情報収集・分析・編集・発信力の向上
- ・教育活動や学校情報の公開度アップと学校評価の改善・充実
- ・家庭・地域の教育活動参画意識の向上
- ・家庭・地域との連携事業の充実

3 令和5年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

〈やさしさ〉(人権意識・社会性・協調性・公共性・道徳性)

○縦割り班活動

- ・月に1回のたてわり班活動を昼休みに実施

○伝統・文化体験交流活動

- ・第1, 2学年による高齢者との昔遊び体験

○奉仕体験活動

- ・ユニセフ募金の実施

○集団宿泊体験活動

- ・5年2泊：海の移動教室
- ・6年2泊：清里林間学校

○あいさつ運動

- ・学期に1回、代表委員を中心とした有志によるあいさつ推進運動

○ハートフルウイーク

- ・夏季休業日明けの1週間、担任と担任以外からの「生命尊重」に関する授業の実施

〈かしこさ〉(主体性・思考力・表現力・判断力・創意工夫・情操)

○朝のモジュール学習

- ・算数の基礎基本の定着を図る個別最適化されたデジタルドリル学習の実施

○チームによる指導体制

- ・算数少人数(1～6年) ※第3, 4学年は4学級6展開
- ・特別教育支援員による支援や配慮を要する児童の学級内での学習支援

○主体的・対話的で、深い学びのある授業

- ・活発な対話をめざした問題解決型の授業展開

〈たくましさ〉(健康・安全・体力)

○体力向上タイムの実施

- ・なわとび週間を実施

○食育活動

- ・給食試食会

(2) 重点目標と方策

〈学力の向上〉

○学年、発達段階の系統性を重視した日常活動及び授業における指導・支援の充実を通して、児童全員の学力向上を目指す。

- ・週3回のモジュール学習により、計算力をはじめとした、算数の知識・技能の定着

〈授業力の向上〉

○児童の課題意識を大切にしたい問題解決型の授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの視点にたった授業を創造できるようにする。

- ・学期に1回、問題解決型授業（問いと対話のある授業）の授業交流を実施する。
- ・学期に1回、活発な対話のある授業をめざした研究授業と協議会を実施し、問いを引き出し、問いを連続させる指導法について学びを深める。

○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境の構築及び授業を展開することを通して、一人一人の学習満足度を高める。

- ・校内研究において、地域と連携したり地域の環境を活かしたりして、生活の中から課題を見付け、主体的に問題解決や探究活動に取り組む児童を育成する授業を構築する

〈学級経営力の向上〉

○児童に個々のよさを発揮させることで自尊感情を高め、成長できる学級集団を形成する。

- ・全学級で月1回の学級会を実施し、発達段階に応じて児童が主体的に学校生活づくりを推進できる話し合い活動の指導スキルを向上させる。
- ・WEBQU及びいじめアンケートをもとに学年で協議する機会を設け、実態、成果、課題の確認及び手だての共有を行うことで、組織的に生活指導スキルを向上させる。
- ・「気持ちの良い挨拶と返事」、「時間を守る」「整理・整頓・清掃」などの基本的な生活習慣を徹底する。
- ・当番、係活動等に責任をもって最後までやり遂げる姿勢を徹底しよさを認め、自己有用感を高める。
- ・児童相互でよさを認め合う活動を日常的に行う機会を設け、児童の自己効力感、自己受容感を高める。

〈組織力の向上〉

○児童の自尊感情を高めるための組織対応力、問題解決力の向上を図る。

- ・月1回の校内委員会を実施し、チームにより迅速・的確・継続的に「抱え込み」の排除を行う。
- ・週に1回の経営会議を実施し、主幹教諭をはじめとして課題発見能力、課題解決力の向上を図り、主幹教諭をリーダーとした校務分掌の活性化を図る。
- ・主任教諭をリーダーとして月2回の若手教員に対するOJTを実施し、学校運営参画意識及び職層、経験年数に応じた組織貢献力を身に付ける。
- ・生活指導の重点目標を設定し、指導の手だてを全教職員が共有し、一致団結して共通した指導を徹底する。

○まとまりがあり、生産的な活動への意欲が高い学校、学年、学級を形成する。